

令和元年7月30日

令和元年度アーバンデザインスクール前期第2回実績報告書

(1) 開催日時

令和元年7月19日（金） 18時30分～20時

参加人数：29名

(2) テーマ

「アーバンデザイン講座」地域資産を都市に活かす

(3) 話題提供者

野原卓（横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授）

(4) 話題の概要

- 昨年出版された『アーバンデザイン講座』（彰国社）の著者全員によるシリーズ講義として、及川清昭氏（UDCBK センター長・立命館大学理工学部特命教授）にコーディネート頂く「アーバンデザイン講座」。
- 第2回は、野原氏に「地域資産を都市に活かす」をテーマに話題提供頂き、地域資産の価値を見つけ出すことや、活かすこと、見えない価値を見抜くことなどについてご説明頂いた。
- アーバンデザインについて
 - 都市は人間の生存維持装置であり、集団生活をスムーズに送るための場所である。
 - 「公」による都市計画、「民間」によるエリアマネジメント、「住民」によるまちづくり、この3つを考えながら進めるのがアーバンデザイン。
- 資源を活かす理由
 - ①時空間のつながりが文化を蓄積させるから。
 - ②いろいろな時代の力が大切だから。一つの力で出来ているまちは、その時代が終わると対応できなくなる。
 - ③限られた資源で持続的に暮らすため。
- 歴史は発見される
 - 現在の我々の目が歴史を見出し、決めている。

- 時間には継ぎ目がないので、どこを受け継いでいくべきかは、現在の我々が決めるべきこと。
 - 都市を解説するための4つの軸（自然軸・空間軸・生活軸・歴史軸）。
- 資産を活かす手法と視点
 - 保存、保全、保護、リノベーション、修復、復元など
- 資産の価値を見つけ出す
 - 喜多方の蔵のまち並み事例紹介。
 - 明治時代の火事後、蔵が焼け残っており、その後防火建築として広まった。
 - 蔵は単体で存在するのではなく、周りの物事とつながりながら、まちの一つの象徴として存在している。
 - 地域によって形の違う蔵の事例紹介。
- 資産の価値を活かす
 - 港町の生きた活用としての横浜の事例紹介。
 - 横浜では関東大震災前の建物が少なく、とても貴重である。
 - 歴史的建物だとは思われて来なかった横浜の防火建築帯だが、目を向けてみれば、実に多くの労力がかけられているものである。
 - 様々な工夫が込められた横浜市庁舎。
 - 創造界隈拠点（クリエイティブ・コア）の形成。
- 見えない価値を見抜く
 - 東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県大槌町のまちにある、100か所以上もの自噴井ネットワークの事例紹介。
 - まちの見えない価値に気付いてまちづくりをするのと、気付かずまちづくりをするのは大違いである。
- 今を生きる
 - 立派な歴史的建物も100年先を考えてつくられた訳ではなく、その時の精一杯のパワーをかけたものである。
 - 今を大切に、今の情熱を込めたものが残っている。
- 草津川跡地公園について
 - 人の流れは東海道や中山道にあり、自然の流れはびわこに向かっている。2つの流れがあるのだと思う。
 - 今、川は流れていなくても、人の流れが公園にある。とても大切なオープンス

ペースである。

- 天井川なので下を通るためのトンネルがあり、今も残されていて、維持されている。

(5) 主な質疑応答

- 開発するお金は誰が出すのか？誰が決めるのか？
 - ケースによって違う。公園ならば行政が所有しているので、税金でつくられる。最近では色々なやり方があり、たとえば民間資本が入ってくる場合もある（公園内レストランなど）。またはクラウドファンディングというやり方もある。やり方が増えたことによって、今までつくれなかったものがつくれるようになって来ている。
- 文化の持続に大切なことは何か？
 - 正直に言えば100年先のことなど分からない。もちろん先のことを考えることは大切だが、今ちゃんと精一杯この時代の価値を込めることが大切。

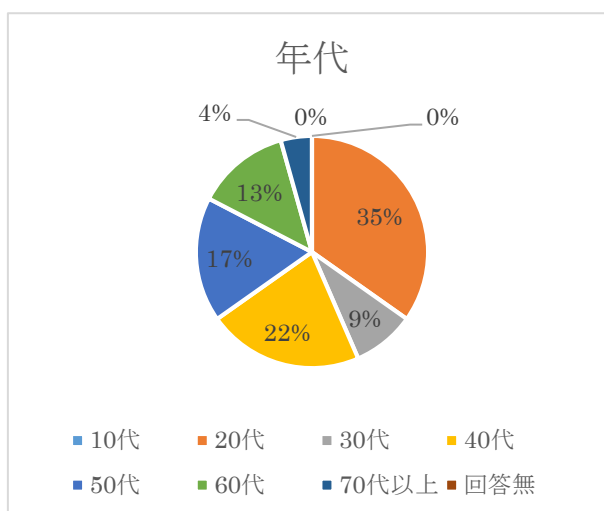
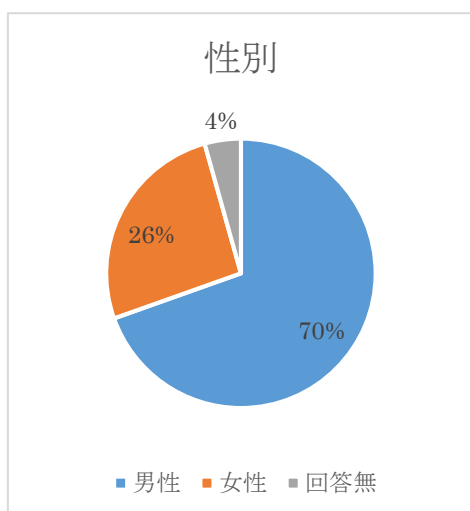
(6) まとめ

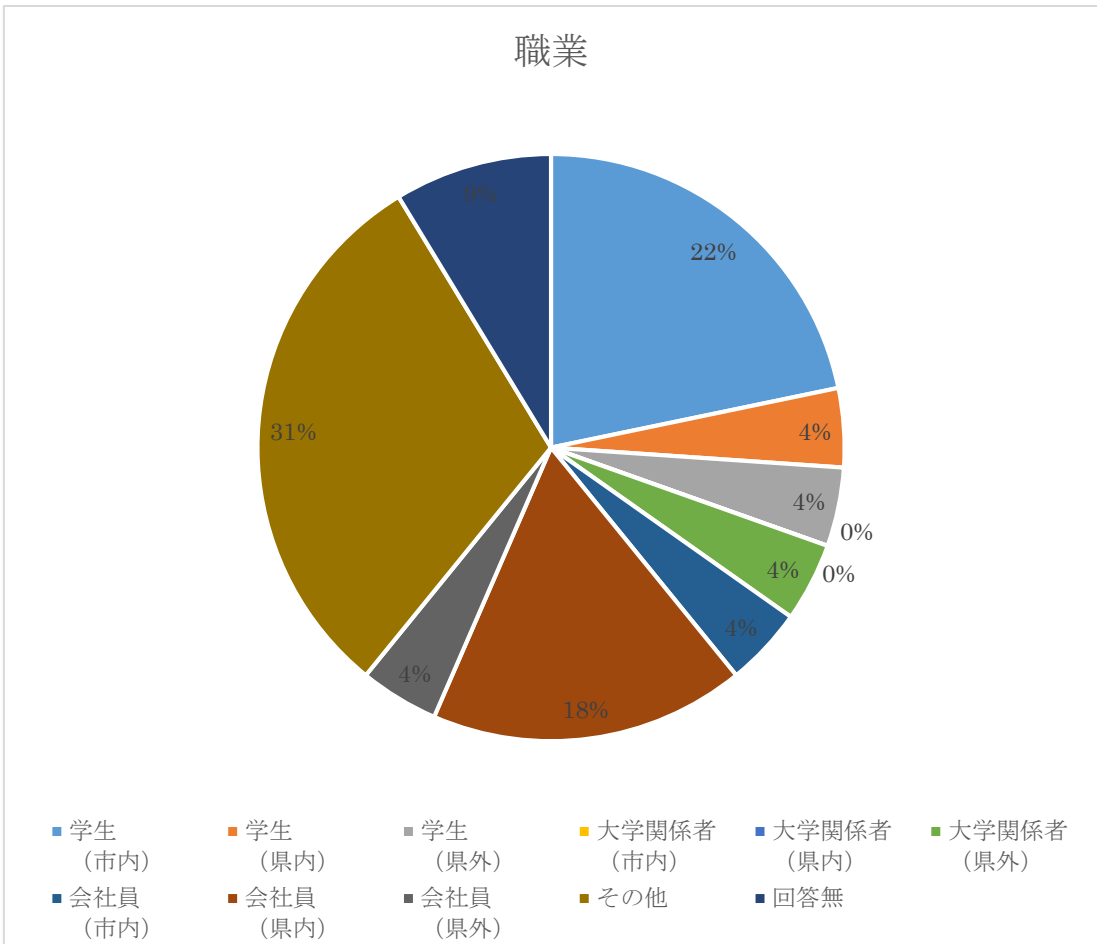
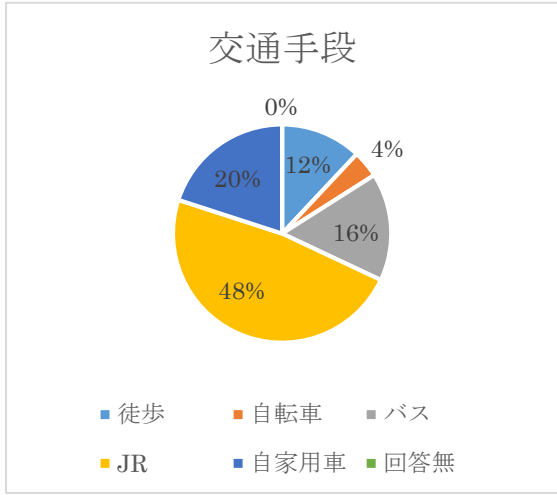
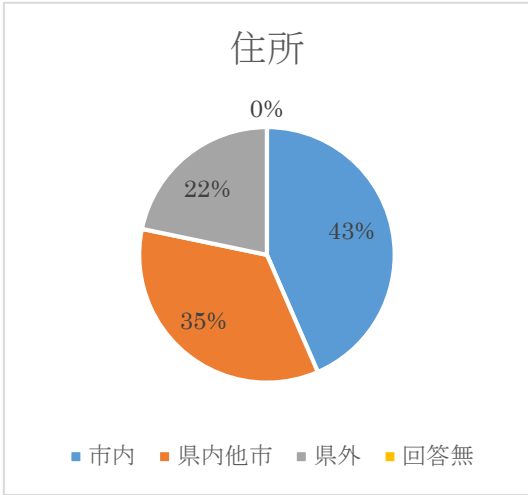
今回の講義では、豊富な事例紹介とともに地域資産の活用について学んだ。今を生きる私たちの目が歴史的価値を見出すかどうかを決めており、価値に気づきながらまちづくりを進める大切さを理解した。

(7) アンケートまとめ

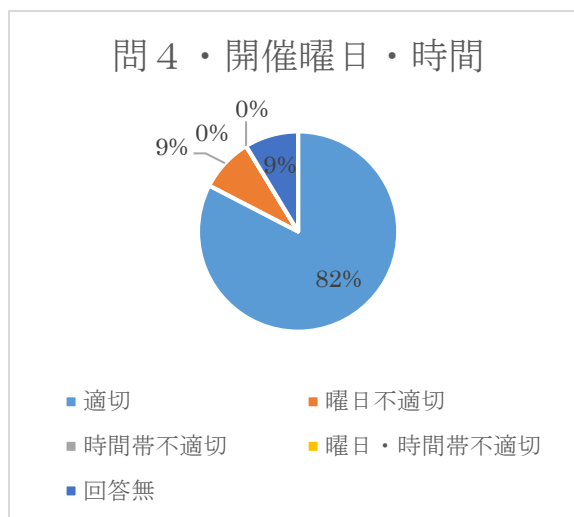
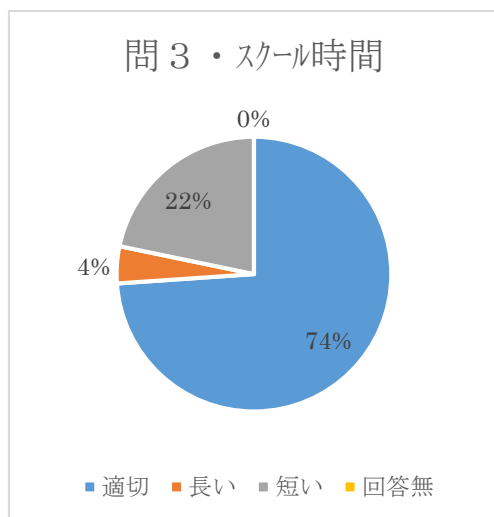
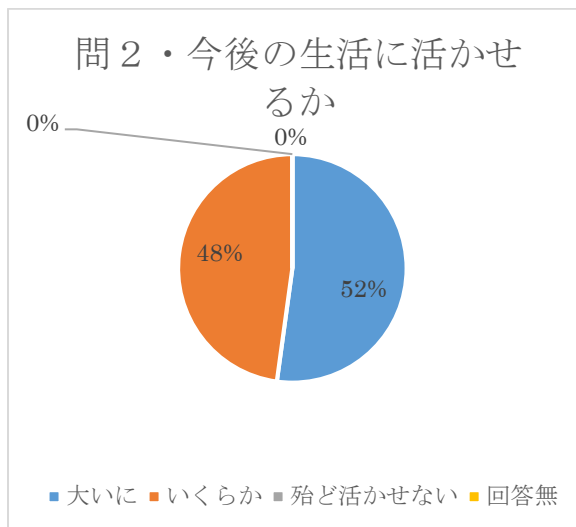
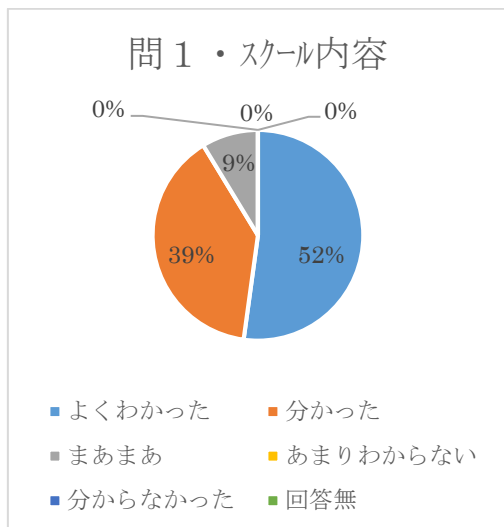
① 参加者属性

参加者29名のうち、アンケートに回答いただいた方は23名、回答率は83%だった。





② 内容について



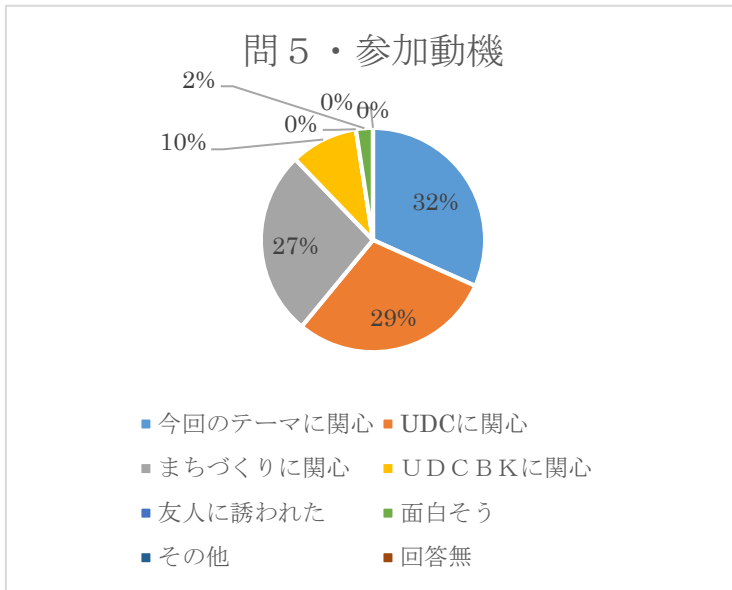
【自由記入欄回答】

問3. 時間はどうでしたか。

- ・ 1時間が適切 (20代男性)
- ・ 2時間が適切 (40代男性)
- ・ もっとお話お聞きしたいです (20代女性)

問4. 開催曜日、開催時間は適切でしたか。

- ・ 月～木曜日の19時頃が適切 (60代男性)
- ・ 土、日曜日 (30代男性)



【自由記入欄回答】

問5. 今回参加した動機についてお聞かせください。それぞれに関心のあるテーマについて御自由に記載ください。

- ・歴史観光資源の在り方（社寺、城など）（20代男性）
- ・地方都市の街並み形成・活性化（20代男性）
- ・コンパクトシティ・CCRC（40代男性）
- ・街並み景観（60代男性）
- ・オープンパーク等各種規制緩和等による事例（30代男性）
- ・町づくりはいろいろな利益がからんで複雑になります。文化というある意味不定形なものをおいかに大切にするか？いろいろ考えます（50代男性）

【自由記入欄回答】

問6. 今回、印象に残ったこととその理由をお聞かせください。

- ・都市を解説するための4つの軸（40代男性）
- ・都市の要素として残っているものには理由があるということ。普段あまり考えてないので印象として残りました（20代男性）
- ・とてもわかりやすく、都市について教えていただきました。都市というと、少しとっつきにくい印象がありますが今日のお話で身近に感じることができました（20代女性）
- ・地域にある本当に大切な資産を気づくという事。中々難しい面あるが、といった事に気づけるようにしていきたいと思った（40代男性）

- ・全て歴史の上に成り立つ 子供の声が気になったので イベント時は静かにして頂くよう呼びかけてほしい (20代男性)
- ・講師の話は大変わかりやすく、良かった。内容が具体的かつ声も大きく言葉もはっきりしていた (50代?)
- ・“文化的に大切なものは何なのか” という問について考えるいい機会となりました (20代男性)
- ・ラーメンと蔵。1) ラーメンがおいしそう 2) 蔵の町並はきれい 3) ちゃんと町のシンボルとして使われているのがすごい (20代女性)
- ・「今あるものを大切にすることが歴史的価値を決める」→日々使っている・見ているだけではなかなか認識しにくい (20代男性)
- ・地域資産を見抜き、探するのが非常に重要になってくる。それをいかに活用させるか。その活用が発展し、地域の文化になって進化していく。このようにネットワークが重要になってくる (40代男性)
- ・何を残し、いかすかそれを共有することが町づくりにつながる。それが政策として派生したり文化としてひろがったりするポイントは何なのか (60代女性)
- ・よく聞こえなかった (60代男性)
- ・学問的に偏ったものではなく実感にそくしたお話であり、汲み入るように聞いた (30代男性)
- ・現代の生活と歴史をあわせることで”地域らしい”まちづくりができると学ぶことができた (20代女性)
- ・よく分かりやすい講義でひきこまれました (40代男性)
- ・今何が大切か早急に考えていきたいです (50代男性)
- ・歴史は、今の人が無くなってきたことに気づいて、気づくということ。歴史はうけつがれる? ←気づくポイントがだれしもが同じとは限らない? その時代、時代でちがう魅力、逆に前の時代の方がよいと思ってたところもわるいと思うのかもしれない?
→今を生きる後にも残ってほしいと思うものにする (20代男性)